



## 祝白寿



鈴木甲子さんは、大正13年生まれ。11月23日に99歳のお誕生日を迎えます。

週1回デイホームえんに通所され、自宅では趣味の折り紙を楽しんでおられます。100枚位はあっという間に折り上げてしまうので、「折紙の調達が大変」と娘さん。

身の周りの事はほぼ自分で出来ていて、しっかりした足取りで自宅の階段を上り下りし、食事も沢山召し上がります。介護認定の更新時にのみ受診。薬は何も飲んでいないけれど、大きく体調を崩し寝込むことはありません。

「また恋がしたいわ」と、乙女心も忘れていません。

<たおやか>という言葉がよく似合う素敵な甲子さん。いつまでもお元気で美しくあれ。

(ケアプランえん 松縄和代)



## 認知症の人の「一人歩き」と介護保険

認知症から起きる行動の中でも、「一人歩き」は行方不明になったり事故に巻き込まれることがしばしば起き、近年は地域ぐるみで「声かけ模擬訓練」なども行われるようになりました。新座市内で「迷い人のお知らせ」が放送されると、「えんの利用者さんでは」と耳を澄ますことになります。実際、利用者さんの捜索に私自身も何度か参加したことがあります。幸い皆さん無事に発見されました。

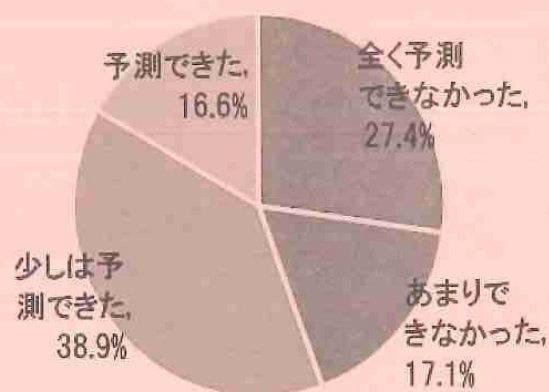
課題のひとつは、この行動が頻繁になる時期に介護保険サービスが十分に利用できないことです。下の表にあるように、要介護状態と「一人歩き」行動は一致しません。始まるのは介護保険の認定を受けていない「未認定」の時が最も多いのです。そして要介護3までにはほぼ終息しています。始まったころの段階が未認定の時期なのは、独居や老老世帯で介護申請されない、あるいは「もしかしたら？」と置いていたら突然行方不明になって、といったことなのでしょう。

家族が行方不明になるのはつらい。家族が真冬に一昼夜行方不明になった経験がある知人は、それ以来始終 GPS で位置確認をしています。しかし「からだ動く時期の認知症」は要介護認定が低くなりがちです。特養ホームの入居申し込みが原則として可能になるのはこの行動がほぼ終息する要介護3以上。それまで自宅で介護となると、本人、家族にとってたいへんな負担です。

介護保険は身体介護モデル(寝たきりモデルとも)で作られていることがこうした問題を引き起こしています。今はサービス利用理由の一位が認知症になりました。予防できない、決定的な治療もまだないというのに、認知症患者がすでに730万人、ピークの2060年には1154万人にもなるというのですから、一日も早く認知症に適した介護保険制度に作り替えなければ、認知症のある方と家族が救われません。誰もがなりうる病気で、だれもがその家族になる可能性があるのですから、すべての人の課題なのです。


「認知症の人の行方不明や徘徊、自動車運転にかかわる実態調査」(2018年)より

要介護度	始まったころの段階		終息したころの段階	
未認定	118	30.2%	0	0.0%
要介護1	106	27.1%	13	6.2%
要介護2	113	28.9%	59	28.1%
要介護3	46	11.8%	95	45.2%
要介護4	7	1.8%	28	13.3%
要介護5	1	0.3%	15	7.1%
集計	391		210	



(暮らしネット・えん代表理事／小島美里)





## 新座市相談支援従事者

### 初任者研修を開催



「相談支援専門員」という仕事を知っていますか？介護保険制度のケアマネージャーの役割を、障がい福祉の制度では「相談支援専門員」が担います。障がい者、その家族と福祉サービスを繋ぎ、必要で適切な支援を受け生活できるようサポートを行います。

令和4年度より「相談支援専門員」の資格取得のための研修「相談支援従事者初任者研修」を、埼玉県より指定を受け、暮らしネット・えんの主催で開催しています。今年度は12名が受講、晴れて資格取得しました。

(基幹相談支援センター／安田実子)

今年度はケアプランえんのケアマネージャーである私も受講しました。これから「相談援助職」として育っていく苗を、7日間かけて丁寧に植え付けをした、そんな印象を持った研修でした。

根っこ（基本姿勢）がしっかり張らないと、根腐れ（バーンアウト）したり、強風や大雨（処遇困難）で倒されたり、木の成長を妨げてしまいます。7日間の研修は「本当に必要で大切な事」に常に意識を向ける工夫がなされ、「本当に必要で大切なこと」が習得できる中身の濃い研修でした。講師や他の受講者は、みな新座で働いている方たちなので、研修中に顔の見える関係性がすでに出来上がり、実務後もスムーズに連携出来る事も魅力的です。支援対象が高齢者と障がい者の違いはあるものの、ほぼ介護保険と同じ業務を行っているのに相談支援専門員は7日間の研修で資格が取得でき、翌日から実務に就くことが出来る。木の成長に欠かせない豊かな土壌ができあがっているからこそだと思いました。

今回地域の仲間と、短い日数ながら質の高い研修を受け、記憶の隅に追いやられていた大切な物を引っ張り出す事が出来たことを感謝しています。

(ケアプランえん／松縄和代)





## 美容室へ講師に行ってきました!

9月26日、美容室ぬばたま大泉学園店さんへ、えんの職員4名で介護技術講習のために伺いました。ぬばたまは大泉学園店の他に2店舗営業、開業50年以上の地域に根差した長い歴史のある美容院です。創業当初から利用されている方達の高齢化に伴い移動、移乗などの介護技術に関心を持たれ、今回の技術講習の運びになりました。

今回の講習は定休日に設定し、他の店舗の職員さんも含め20人近い方々が参加してくださいました。家族介護教室の経験はありましたが、他職種の美容師さんにどこまで介護技術をどう伝えるか、どんな話をすれば良いかと講習開始ギリギリまで悩んでいました。お店に着き、用意していた資料にそって講習開始。まず介護技術の概要説明と車椅子から椅子への移乗、移動、衣服の着脱などのデモンストレーション、次は班に分かれて介護技術と進みました。途中途中で「麻痺がある場合は何処に気をつければ良いか」、「椅子に座っている状態で体の位置が前にずれてしまった場合はどうすれば良いか」などいくつもの良い質問があり、「介護職かな?」と錯覚するほど。

次に4班に分かれて車椅子の試乗とシャンプー台への移動・移乗を美容師さん同士でおこなってもらいました。基本的なやり方をお伝えしていましたが、「体が大きく立位がほとんど取れない方のスムーズな移乗、移動ができる方法は?」、「立位が取れない方は、美容師数名で抱きかかえているが、ほかにできる方法は?」などまたまた質問が。自分がケアで使っている方法を伝えると、すぐに美容師さん同士で実行する姿を見て本当に嬉しく思いました。最後に行った寝たままの状態での洗髪のデモも美容師さんがモデルをつとめてくださいました。



ぬばたま大泉学園店での講習

3時間にも及ぶ長い講習にも関わらず、最後まで真剣に聞いてくださる姿勢や講習の空気感はとてもやりやすく、同時に勉強になりました。自分自身も日頃の仕事のなかで他職種の方に技術を伝える機会が少ないので改めて勉強させていただきました。

(ケアサポートえん/小林大輔)



## 国際福祉機器展に行ってきました！



9月 27 日(水)、ビックサイトで開催された『第50回国際福祉機器展&フォーラム東京』に約 20 年ぶりに行ってきました。広い会場には 1 日で見切れないほど様々な展示紹介がされています。人が集まるブースに足を運ぶと、炭酸飲料用のロミの粉を使ったサイダーを、試飲していました。むせやすい方でもこの粉を使えば、コーラやビールなども安全に飲むことができます。次に目に留まったのは、気管切開した方などに使用が期待できるマイクです。声が出なくてもマイクを喉に当てロパクで喋ると、音声に変換されて発声されます。利用者の方が快適に暮らせる知恵やヒントがたくさんあり、とても貴重な体験でした。

別会場のフォーラムでは暮らしネットえん小島代表より「安心して認知症になれる社会に向けて」の講義がありました。最近では独居の認知症の方も増えて対応に苦慮しています。また、今年アルツハイマー型認知症初の治療薬レカネマブが承認されました。対象は軽度認知障害、初期の認知症の方で、進行を約 3 年遅らせられるそうです。それでも高い薬代や副作用の問題など課題はたくさんあります。この薬の開発でアルツハイマー病の解明は一合目とのこと。最後に「介護保険では認知症対応を疎かにしてきた、23 年たっても相変わらず身体介護モデルのまま、予防重視だが、原因が解明されていない認知症は予防できない、認知症の方は自分が思っていることを上手く伝えられない方がほとんどなので、私たち介護職が何に困っているのか、発信して行きましょう」と締めくくりました。

話はそれますが、この原稿を書いているちょうど今、ラグビーのワールドカップが開催されています。以前新聞の記事で読んだのですが、日本で天然芝の普及活動をしている英国の方が、「日本人は体型の不利を口にするけれど、日本人と英国人のラグビー選手の平均身長はほとんど変わらず、何が違うかというと、英国人は子供の頃から芝の環境で育っている」、芝だと転んでも痛くないので、思いっきりプレーすることができます。芝の普及が進めば、日本のラグビーはこれからも強くなっていくことでしょう。安心して転べる芝の普及のように、「安心して認知症になれる社会に向けて」、これからも認知症に対する理解を広げ、地域の人たちと一緒に取り組んで行きたいと思います。

(グループホームえん・ケアサポートえん／立川栄侍)



～甘いものと珈琲とおしゃべりと～



新型コロナ感染症が五類感染症に位置づけられ、窮屈だった生活も少し和らいできました。感染予防で控えていた活動も少しずつ取り戻したいと、流行りの喫茶店でお茶会をしてみました。

「どこに行くんだらうねえ」「喫茶店だって…」いそいそと車に乗り込み、いざ朝霞へ。選びやすいようにメニューはケーキセットに決めて、飲み物とケーキを選んでもらいました。「何にする?」「これもいいねえ。こっちがいいかな」。先に届いたアイスコーヒーをみて「私のは?頼んだよね?」、「ホットコーヒーを注文していましたよ」、「え～、そうだった?」。

「うわあ、美味しそう!」、「あなたのそれ、いいわね」。食事は小食だからと少なめにしている A さんも、大きなケーキをペロッと召し上がりました。「たのしいわね～、毎月やってよ!」お出かけが大好きな B さん、C さん。喫茶店は何年振りかの D さん。

小洒落た雰囲気の中、いつもの顔見知りと普段とは少し違った会話が楽しい。利用者さんもスタッフも幸せなひと時でした。

(まどかレクリエーション企画/集貝・和知)





敬老の日！！お弁当も華やかに

9月18日(月)は敬老の日でした。それにちなんで敬老の日メニューにしました。行事食の日はいつもより手間をかけるので大変ですが、お弁当配達時に利用者さんが「今日は敬老の日だからお赤飯なのね」、「おいしそう!」と喜んでくださいました。普段よりも一段とうれしそうな表情を見ると、こちらもうれしいです。

引き続いている原材料費の値上げでキビシイ状況ですが、お弁当の質を落とさないように試行錯誤しています。

(えんの食卓/富山優子)

敬老の日メニュー

\*お赤飯

\*天ぷら

(えび・さつまいも・かぼちゃ、ピーマン・天つゆ)

\*がんもと野菜の煮物

\*小松菜の酢味噌和え

祝



えんの食卓 ~調理&配達スタッフ~



秋のおすすめレシピ

さつまいもとリンゴの重ね煮

材料(4人分)

さつまいも 120g・りんご 40g・干しぶどう 12g・無塩バター4g・三温糖 8g  
食塩 少々・水 40g

さつまいもを1cmにちぎって、りんごも1cmにちぎって、水・砂糖を入れ煮る。さつまいもが柔らかくなったら残りの材料を入れる。





第20回 暮らしネット・えん

# みんなのコンサート

## JAZZ ~井上信平と Concert その仲間たち~

主な曲目：枯れ葉、サンセットカーニバル、Coming home baby 他

日時 **2023**年**12**月**3**日(日) 開場 1:30 開演 2:00~

場所 新座市立中央公民館 体育室

会費 大人 1500 円 子ども(小・中学生) 700 円 未就学児 無料

主催:認定 NPO 法人 暮らしネット・えん

後援:新座市/新座市社会福祉協議会

問合せ 048-480-4150

### ◆ 認知症電話相談のお知らせ ◆

認知症に関する悩みごと、介護のコツや生活の工夫等々、お気軽にお電話ください。

TEL 048-480-4150

#### 認知症カフェえんの森 再開!

これまでは「認知症のことを地域の方に理解していただく」ことに主眼をおいてきましたが、再開を機に、ご本人と介護家族を中心にした集いとします。参加を希望される方は、吉村または小島までお電話ください。

#### ~新型コロナウイルス対策~

5類に変更となりましたが、変わらず感染防止対策につとめてまいります。



地域で暮らし続けていくために 2023年度新規・継続会員募集中!

正会員：1000 円 賛助会員：3000 円

※入会を希望される方は、事務局までご連絡ください。

郵便振替(00180-5-314344)



■ 編集・発行 認定NPO法人暮らしネット・えん

〒352-0033 埼玉県新座市石神2-1-4

電話:048-480-4150 FAX:048-201-1311

Eメール:npoenn@jcom.home.ne.jp

ホームページ:https://npoenn.com/